

MIS036-P134

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 14:15-16:15

東北地方太平洋沖地震津波に伴う陸上斜面の侵食・堆積作用の特徴 Characteristics of surface erosion and sedimentation by the 2011 Tohoku Tsunami

中村 有吾^{1*}, 西村 裕一¹

Yugo Nakamura^{1*}, Yuichi Nishimura¹

¹ 北海道大学地震火山研究観測センター

¹ ISV, Hokkaido University

東北地方太平洋沖地震津波によって形成した津波堆積物の分布および層相と地形の関係を野外において調査した。調査範囲は、青森県三沢海岸、および岩手県久慈市から大槌町で、なるべく自然の状態に近い海岸で調査した。津波による浸水距離と堆積物の厚さは、場所によって異なる。津波の高さは最大で標高 30m を超え、浸水距離も 1km を超える。なだらかな地形上では、津波堆積物は連続的に分布する。その層厚は 20cm 程度だが、海岸付近に砂丘や砂浜があると、より厚くなる。津波堆積物は、侵食域の背後で厚く堆積し、侵食域から離れると薄くなる。遡上限界付近では、砂粒子が地表に点在する。海岸付近に侵食されやすい地形がないと、津波堆積物は薄く、分布はパッチ状になる。津波堆積物は主として砂よりなり、海岸からの距離に応じて細粒化する。津波の波高と、堆積物の厚さ・粒径の間には、顕著な関係は見られなかった。

キーワード: 津波堆積物, 地形, 侵食, 東北地方太平洋沖地震津波

Keywords: Tsunami deposit, Landform, Erosion, the 2011 Tohoku Tsunami